

羽田井集落「集落営農ビジョン」

作成日:平成 27 年 8 月 12 日

修正日:平成 年 月 日

| | | | |
|------|-----|-----|-----------|
| 市町村名 | 大山町 | 組織名 | 羽田井水稻生産組合 |
|------|-----|-----|-----------|

1 地区の範囲
西伯郡大山町羽田井地区

2 地区の概要

| | | | | | |
|--------|---------|-------------------|-------|-----|------|
| 水田面積 | 52.3 ha | 主な水田栽培作目 | 水稻・飼料 | 農家数 | 64 戸 |
| 認定農業者数 | 3 経営体 | 人・農地プランの中心となる経営体数 | 0 | 経営体 | |

3 組織化及び集積率(経営、機械の共同利用及び作業受託)の目標

| | 【項目】 | 【現状】 | 【目標】 平成 28 年度 |
|-------|---------------------|---|---|
| 組織の概要 | 設立時期 (規約等の制定日) | 昭和 55 年 2 月 11 日 | |
| | 組織形態 (該当形態に○を記入) | <ul style="list-style-type: none"> ・未組織 ・共同利用型 ・作業受託型 ・協業経営型 | <ul style="list-style-type: none"> ・共同利用型 ・作業受託型 ・協業経営型 |
| | 構成農家数 | 51 戸 | 53 戸 |
| | 農地の集積 | | |
| | 集積面積 A | 33.60 ha | 34.56 ha |
| | 対象水田面積 B | 46.74 ha | 46.74 ha |
| | 集積率 A/B | 71.9 % | 73.9 % |
| | 世代交代への取組 | | |
| | 新規就農者の活動参画 | | |

- 注1) 目標は事業実施最終年度の翌年度とする。
 注2) 設立時期の目標欄は、ビジョン作成時に組織が設立されていないときのみ記載すること。
 注3) 集積面積の詳細は別表「集積目標(実績)一覧」により作成。
 注4) 集積率の目標は、50%超が採択要件。
 注5) 集積率の目標は、原則として現状よりも高い数値を設定すること。
 注6) 集積率の目標値を現状より高い数値に設定することが困難な場合、構成農家数の増、世代交代への取組、新規就農者の活動参画のいずれかでも可。ただし世代交代への取組又は新規就農者の活動参画の欄に現状及び目標を記載すること。



I 集落営農に対する基本方針

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

※考え方(担い手をどう育成し確保していくか。農地賃借、機械の共同利用、作業受委託、生産の組織化などについて)

現在、当組合は、水稲作付けにおける地域の担い手として中心的な役割を担っている。近年、高齢化に伴う離農や米価下落に伴い水稲経営から離れる農家も多く、当組合に対する作業委託の増加が見込まれるため、組合を構成する中核メンバーの若返りや機械装備の充実といった組織強化を目指す。

また、集落における利用拡大が進むことは、耕作放棄地を発生防止にも繋がることから、より組合員の要望(即日作業や作業精度の向上など)に対応できる体制を築く。

2 水田作付計画、生産調整の方針・具体策

※考え方(今後、伸ばしていく作物は何か。団地化・ブロックローテーション。作物の品質向上。)

当地域は、水田を主体とした地域であるため、水稲作付けを基本とする。主食用米については、現在の「コシヒカリ」主体の作付けから「きぬむすめ」といった市場の需要に応えられる品種への転換を検討する。生産調整については、地力増進作物より収益性の高い飼料用米、WCS用稲で対応することで、農家所得の向上に繋げたい。

3 農業用機械施設の効率利用

※考え方(省力・低コスト化に向け、機械・施設をどの様に有効活用をしていくか。今後整備が必要なもの、JAが整備している施設をどの様にするか。)

当組合は、平成21年度の多様な集落支援事業を活用してコンバインや田植機を導入したことで、水田集積の体制もある程度整い、既存の組合員のみならず、他の担い手農家からの作業受託も増えている。しかし、当地域は受託対象となる水田が50ヘクタールと広大であること、併せて、地域の形状が南北に縦長であり分散していることから短期間に収穫作業を終えるには、収穫機械の充実が不可欠である。

これまで当組合では前述の事業で導入したコンバインと10年以上前にリース導入したコンバインの2台体制で収穫作業に対応してきたが、リース導入したコンバインは、老朽化が激しく修繕費が嵩むこと、また動作不良が多いことから、当組合の経営を圧迫する原因にもなっている。

このままでは今後の増加が見込まれる作業受託に対し、対応が難しくなることが想定されることから本事業において新たなコンバインを導入したい。これが実現すれば地形的な問題にも対応し、併せて作業効率向上による計画的な適期作業が可能となる。この作業効率向上によって低減したコストについては、利用料の低減という形で組合員に還元したい。こういった取組でより一層、組合の活用が進むと思われる。

なお、平成15年度に購入したコンバインについては、本事業により新たなコンバインを導入した際には整理する予定である。

その他に将来的には、コンバイン刈取り後の水稲の乾燥調製はJAのライスセンターを利用しているが当地域生産米専用の保管ストックが可能とならないか、今後は出荷先の農協に検討協議を行いたい。

4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

※考え方(世代交代に備え、組織運営の後継者をどの様な方法で育成していくか。新規就農者の活動参画。具体的な取り組み内容について。)

現在、組合内には5人のオペレーターがいるが、最近、離職し新たに農業を始めた者を主力オペレーターとして迎え、世代交代を図る予定にしている。

今後も数少ない若手農業後継者や後継者予定の農業高校生等との地域内交流、また、大型農業機械のオペレーター試乗操作等を通じて農業に関心をもってもらい組合への参加を促したい。又現在、新規定住の就農者候補も農業研修しながら積極的に地域の行事活動に参加しており、今後も支援し、アドバイス等を行い温かく見守っていきたい。

5 経営多角化の方針・具体策【経営多角化支援メニューを実施する組織においては必ず記入】

※考え方(どの様な手法で多角化を図るか。新規作物の導入、販路拡大に向けた自主的な取組などについて)

II 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備方針

| 機械施設名 | 規格能力 | 台数等 | 金額 (円) | 導入予定 年月 | 本事業による 導入機械に○ |
|-------|------|-----|-----------|------------|------------------|
| コンバイン | 4条刈 | 1式 | 9,514,800 | H27.8 | ○ |
| | | | | | |
| | | | | | |